

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 6 年 11 月 18 日(2024.11.18)

【公開番号】特開 2024-158657(P2024-158657A)
【公開日】令和 6 年 11 月 8 日(2024.11.8)
【年通号数】公開公報(特許)2024-209
【出願番号】特願 2023-74022(P2023-74022)
【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04(2006.01)

10

A 6 3 F 7/02(2006.01)

【F I】

A 6 3 F 5/04 6 0 2 A

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 6 年 11 月 8 日(2024.11.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

2つのスピーカと、

導光可能なレンズと、

前記レンズに光を照射する光源と、

前記 2つのスピーカ及び前記レンズの遊技者側を覆うカバーと、を備え、

前記カバーは、前記 2つのスピーカに対向する対向部と、前記 2つのスピーカに対向しない非対向部とに形成された透音孔を有し、

30

前記光源は、前記 2つのスピーカの間であって、前記非対向部に形成された透音孔に前記レンズを介して対向する位置に配置されている

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

従来、スピーカ周辺を発光させる演出を行うことができる遊技機が知られている(例えば、特許文献 1 参照)。

40

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

【特許文献 1】特開 2 0 0 6 - 4 3 0 5 7 号公報

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

50

【補正対象項目名】 0 0 0 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 4 】

しかしながら、特許文献 1 に記載されているような遊技機においては、スピーカの周辺を発光させるための導光板がスピーカの前面側に露出している。そのため、スピーカ周辺を発光させる演出が行われる前に、その演出の存在を遊技者が容易に想像できてしまい、遊技の興趣が低下してしまうという問題があった。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

10

【補正対象項目名】 0 0 0 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 5 】

本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、発光部をスピーカの前面側に露出させることなく、スピーカ周辺を発光させる演出を実行可能な遊技機を提供することを目的とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書

20

【補正対象項目名】 0 0 0 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

2つのスピーカ（例えば、上部スピーカ装置 4 9 9 2 , 4 9 9 3 ）と、導光可能なレンズ（例えば、フレームレンズ 4 8 8 2 ）と、前記レンズに光を照射する光源（例えば、複数の LED 4 9 9 6 ）と、前記 2 つのスピーカ及び前記レンズの遊技者側を覆うカバー（例えば、上部スピーカカバー 4 8 8 3 ）と、を備え、前記カバーは、前記 2 つのスピーカに対向する対向部と、前記 2 つのスピーカに対向しない非対向部とに形成された透音孔（例えば、透音孔 4 1 0 8 ）を有し、前記光源は、前記 2 つのスピーカの間であって、前記非対向部に形成された透音孔に前記レンズを介して対向する位置に配置されている
ことを特徴とする遊技機。

30

【手続補正 7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 8

【補正方法】 削除

【補正の内容】

【手続補正 8】

【補正対象書類名】 明細書

40

【補正対象項目名】 0 0 0 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 9 】

上記構成の遊技機によれば、発光部をスピーカの前面側に露出させることなく、スピーカ周辺を発光させる演出を行うことができる。